

<機械・農作業の共同化に取り組む事例>

〇多岐にわたる共同取組活動で集落機能の発展を図る

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	福井県 ^{おのしもりやま} 大野市森山				
協定面積 21.6ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地	
	水稻、里芋、麦、大豆、ネギ、他				
交付金額 401万円	個人配分			33%	
	共同取組活動 (67%)	集落の各担当者の活動に対する経費			4%
		集落マスタープランの将来像を実現するための経費			27%
		水路・農道等の維持・管理に要する経費			21%
		農用地の維持・管理に要する経費			10%
共同機械購入積立金、その他			5%		
協定参加者	農業者26人、非農業者5人、土地改良団体2人、農業生産法人1人、			開始：平成12年度	

2. 取組に至る経緯

当集落は、大野盆地南端に位置し、集落全戸が農業を行っており、水稻や全国的に有名な「上庄里芋」の作付けが多い集落である。当集落は、地域住民のまとまりが強く、会合や勉強会が頻繁に行われる一方で、農業者の高齢化や若年層の流出、有害鳥獣による農作物被害などにより、農業生産活動の維持が懸念される状況にあった。

このような中、平成12年度から本制度を活用し、多角的に共同取組活動を行いながら、集落の活性化の一助としている。

3. 取組の内容

当集落では、共同利用機械等の整備や有害鳥獣防止柵の設置、景観作物の作付け、体験農園の実施など多岐にわたる活動を行っており、農地・水保全管理支払交付金も活用し、平地も併せて、集落ぐるみで一体となった農業生産活動を展開している。

第3期対策初年度には、第2期対策からの積立金を活用し、農機具格納庫や防除機、里芋掘り機を整備し、農作業の共同化を図っている。なかでも、共同防除は収穫に対して良い効果を現しており、構成員から好評を得ている。

また、イノシシや、サルなどによる農産物被害が多いため、隣接集落と協力しながら鳥獣害防止柵を設置し、農産物被害を最小限に抑えている。景観美化活動としては、春には芝桜、夏以降はゴールデンピラミッドを協定地の畦畔に作付けし、集落の多面的機能の増進を図っている。



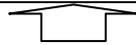
【防除機の共同利用】



【ゴールデンピラミッドの作付け】

【集落の将来像】

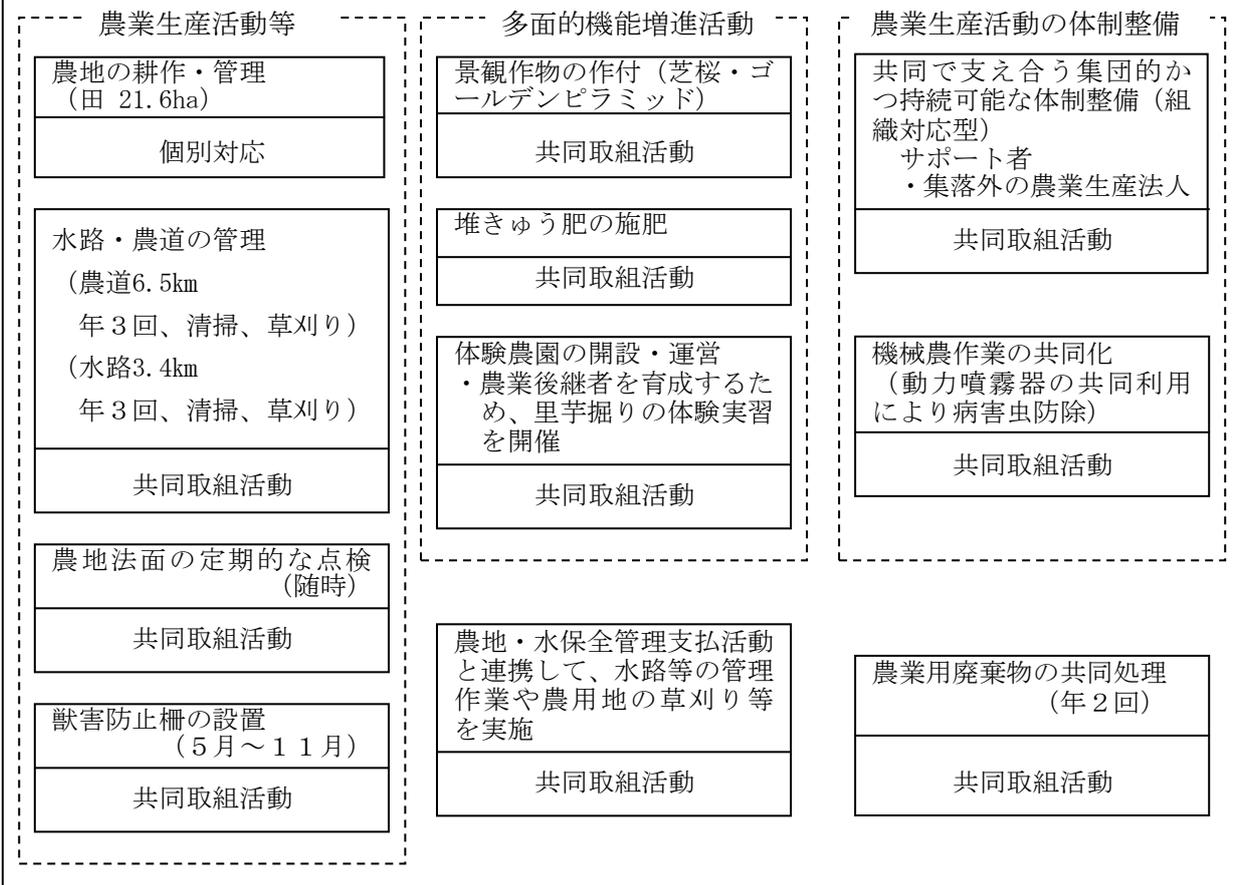
- 集落ぐるみの農業生産活動等の体制整備を進めて省力化（生産コストの削減）を図り、地域特性を活かすとともに他地域との連携も図る。



【将来像を実現するための活動目標】

- 機械の共同化促進による生産コストを削減する。
- 平地と中山間地の差である「畦畔」を適正に管理し、美しい景観づくりに寄与する。

【活動内容】



4. 今後の課題等

防除機の共同利用により、営農の効率化、生産コストの削減について一定の成果があった。今後は、さらなる省力化を図るため防除機以外の農業機械を整備し、特に特産の里芋づくりには多大な労力を要するため、付加価値生産品である「上庄里芋」の畝たて、植え付け等における共同化を図り、オペレーター等の育成を目指す必要がある。

一方で、次世代の農業者を育成していく必要が急務で、現在実施している体験農園等の活動により、若い人材の関心を農業に向かせる仕掛けと工夫が必要である。

また、農道畦畔への芝桜、ゴールデンピラミッドの作付けについては、美しい景観づくりのために、今後も継続して活動を実施していきたい。

【第2期対策の主な成果】

- ・ 農業機械の共同防除による作業効率化 (H17実績：0ha、H21実績：3ha)
- ・ 芝桜、ゴールデンピラミッドの作付けによる畦畔の美化